

社会的課題解決のためのイノベーション ～社会システムとしての街づくり～

日 時：2014年4月30日（水）13時00分～17時00分
 会 場：東京大学 山上会館 2階大会議室（最寄り駅：丸ノ内線・大江戸線 本郷三丁目駅、南北線 東大前駅）
 主 催：横幹技術協議会、横幹連合、産総研スマートライフケアコンソーシアム
 参 加 費：横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、産総研関係者、学生は参加無料。
 【上記以外】一般 2,000 円
 参加申込：【事前登録】オンライン申込 (http://www.trasti.jp/forum/forum41_kyg.html)

【企画趣旨】

2011年3月11日に発生した東日本大震災から3年が過ぎ、被災地では仮設住宅から復興住宅への移転が始まりつつあり、復興住宅建設に合わせて近隣の街のデザインを検討すべき段階に入っている。被災地の多くは地方都市であり、被災による人口流出や今後の超高齢化の社会的課題に対しては、特に街全体への影響が大きく、今後の人口の増減に応じたスケーラブルな街づくりおよび社会システムを検討する必要がある。被災地は、今後の日本における高齢化社会や産業空洞化の問題の縮図となっており、被災地の街づくりや社会システム設計は、次世代に向けた日本全体の街づくりと密接な関係があると言える。本技術フォーラムでは、被災地を事例の一つとして、今後の社会課題解決のためのイノベーションにつながる社会システム実現に向け、どのように産学官が共同して研究開発を進め、イノベーションにつなげていくべきかについて講演ならびにパネルディスカッションにて議論する。

【プログラム】

13:00-13:10 開会にあたって

13:10-13:30 フォーラムの趣旨説明

13:30-14:50 ◆ **講演1**
「社会システム・デザイン」によるソフトウェアとしての街づくり

14:50-15:20 ◆ **講演2**
東日本大震災から3年、被災地気仙沼市の挑戦

15:20-15:30 休 憩

15:30-16:50 ◆ **パネルディスカッション**
「社会システム・デザイン」における良循環を構築するための地域活動について

※事前情報
東北未来創造イニシアティブの活動に関して
<http://tohokumirai.jp>

北原国際病院は、東松島において「医療をツールとしたまちづくり」(復興庁「新しい東北」採択事業)に取り組まれています。

NPO 底上げは、底上げ Youth(観光を高校生の視点で考え、行動する気仙沼の高校生団体)をサポートしています。
<https://www.facebook.com/sokoageyouth>

16:50-17:00 閉会にあたって

(敬称略)

総合司会:谷川 民生(産業技術総合研究所)

桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)

大場光太郎(産業技術総合研究所 副部門長)

横山 禎徳(東京大学 特任教授)

菅原 茂 (気仙沼市 市長)

司会:大場光太郎

講師の皆様

横山 禎徳

菅原 茂

桑原 洋

出口 光一郎

被災地復興活動の皆様

森 成人(東北未来創造イニシアティブ

リアス創造観光プラットフォーム 経営未来塾担当)

小松 志大(東北未来創造イニシアティブ

水産資源活用研究会 経営未来塾担当)

浜崎 千賀(北原国際病院 経営企画室長)

成宮 崇史(NPO 法人底上げ事務局長)

小島 一浩(産総研 気仙沼現地担当)

出口 光一郎

社会的課題解決のためのイノベーション

～社会システムとしての街づくり～

2014 年 4 月 30 日（水）13 時 00 分～17 時 00 分

【講演要旨】

（敬称略）

講演1

「社会システム・デザイン」によるソフトウェアとしての街づくり

◆ 横山 禎徳（東京大学 特任教授）

人類未経験の超高齢化社会を迎え、世界中の誰もがまだ答えていない様々な社会課題が突きつけられている。特に被災地は、将来日本が直面する課題の縮図となっており、行政、企業、そして我々がどのように課題解決し、今後の街づくりに活かしていくかが問われている。目に見える姿の街づくりだけでなく、それを支える運営システムのソフトウェアが重要である。そこには提供者発想ではなく、生活者の視点から組み立てられている必要がある。それに答えるアプローチとしての「社会システム・デザイン」をいくつかの例と被災地への提案を含めて説明する。

まず、「社会システム」を「生活者への価値創造と提供の仕組み」と定義し、常に変化するダイナミック・システムとしてデザインする。まず、現象の中に「悪循環」を発見することで現象の裏にある本質をつかんで課題設定したうえで、「良循環」を創造し、それを「駆動」するシステムを組み立てるのが基本的なアプローチである。

講演2

東日本大震災から3年、被災地気仙沼市の挑戦

◆ 菅原 茂（気仙沼市長）

東日本大震災の被災地の多くは、震災前から少子高齢化、人口減、右肩下がり経済の中にあり、地域の衰退に歯止めがかからない状態にあった。そこに決定的打撃を与えたのが今回の大震災である。

復興庁を中心とした政府の大規模な支援を受け復旧・復興事業を展開しているが、社会基盤や被災者の住宅再建、事業所の一定程度の復活は何とか達成出来たととしても、まちの将来が保障されたわけでは全くない。今、被災地気仙沼市が何を考えどのような手を打とうとしているのかをご披露し、出席される識者の皆様のご意見をいただきたい。

<第41回横幹技術フォーラム 申込書>

1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

交通案内



本郷キャンパス

(c)The University of Tokyo 2010



最寄駅：大江戸線 本郷三丁目駅、南北線 東大前駅